

果樹農業を支える労働力確保体制の構築<<秋田県鹿角地域>>

事業取組概要

【事業の実施方針】

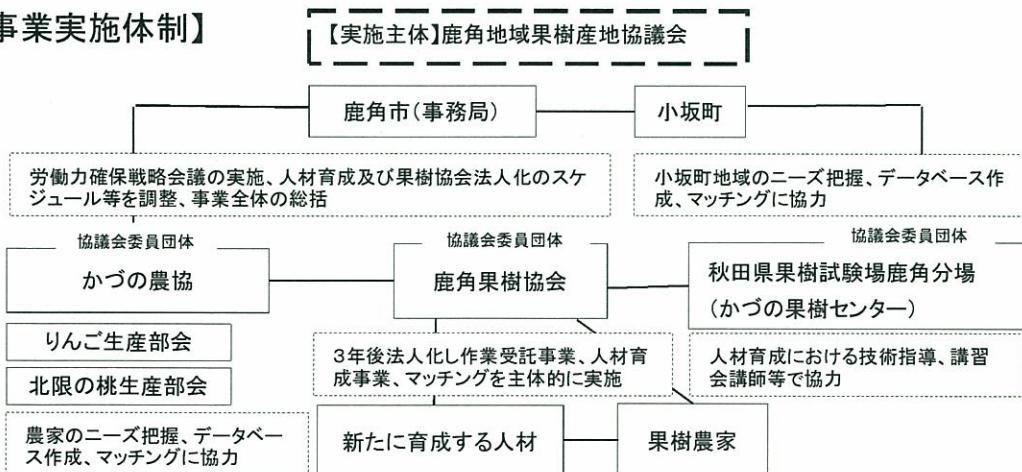
《背景・課題・実施方針》

古くからリンゴ栽培が盛んな当地域は平成に入り桃栽培への転換が図られた。平成12年ころから「かづの北限の桃」として本格的な産地化、ブランド化を進め市場をはじめ全国で「秋に食べられる桃」として認知度を高め、地域を代表する農産品となつたが、労働力不足、労働者の高齢化等により産地としての取組や栽培面積の拡大が停滞している。鹿角地域果樹産地協議会では、果樹農業に欠かせない人手について現状を把握しようと平成29年度6月に「果樹農業労働力調査」を実施した。その結果、現在の労働体制、病害虫防除体制に不安を抱える農家が約3割と果樹産地としては現状維持をもつてきくことができない危機的な状況であることが明確となった。

本事業では果樹農業を支える人材を確保、育成し農家とのマッチングを行う体制を構築することで、果樹産地の維持向上、ブランド化等の取組みにつなげていく。



【事業実施体制】



【事業の主な内容】

1年目(平成30年度)

- ①果樹栽培サポーター育成講習会の実施(1年目)
- ②労働力確保戦略会議の開催
- ③農家とのマッチングのためのデータベース作成
- ④農家とのマッチングのための運営体制、ICTシステムの検討

2年目(平成31年度)

- ①果樹栽培サポーター育成講習会の実施(2年目)
- ②労働力確保戦略会議の開催
- ③農家とのマッチング事業を運営する法人の設立
- ④ICTを活用したマッチングの試験運用

3年目(平成32年度)

- ①果樹栽培サポーター育成講習会の実施(3年目)
- ②労働力確保戦略会議の開催
- ③ICTを活用したマッチングの試験運用

【特徴的な取組】

○鹿角地域果樹産地協議会が実施主体となることで、人材育成からマッチング、運用まで関係機関、団体が連携・協力し農家ニーズを丁寧に把握しながら取組を進めることができる。

○育成講習会の参加者募集について、市広報等をはじめ、母親世代のサークルやグループ、団体等を通じて周知し、幅広い年齢層(20代～60代)で育成する。

○永続的な活動(育成、マッチング、運用)を実現するため、果樹協会等の法人化を視野にスマートフォンやタブレット等を使ったアプリケーションによるマッチングの運用等を検討し、1年に1回しかない果樹農業技術の習得機会に無駄や遅れを出さないよう効果的な運用を目指す。